

事業事前評価表

国際協力機構アフリカ部アフリカ第二課

1. 基本情報

国名：ウガンダ共和国(ウガンダ)

案件名：北部ウガンダ地域中核病院改善計画

The Project for the Improvement of Regional Referral Hospitals in Northern Uganda
G/A 締結日：2018年4月26日

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

ウガンダでは、「国家保健政策 II」(2010/11年-2019/20年)の中で、基礎的な保健サービスの効果的な提供を目指し、施設の改修や医療機材の更新など、保健インフラの整備を政策上の重要課題として挙げている。また、「保健セクター開発計画」(2015/16年-2019/20年)においても、保健インフラの整備を含む保健システム強化が重視されている。これらを踏まえて、当国政府は保健システム強化策の一環として、地域医療体制の整備を通じたリファラル体制(医療施設の機能を分化し、患者の重症度等に応じて、一次医療施設からより高次の医療施設へと患者を紹介・搬送、情報共有等を行う体制)の構築を進めてきた。

1980年代から約20年続いた内戦の影響を最も受け、多くの元国内避難民を抱える当国北部のアチョリ地域(8県)、ランゴ地域(8県)、西ナイル地域(9県)では、保健システム強化の実現に向けて、一次医療施設の整備が進められている。しかし、各地域のリファラル体制の中で高次機能を担うグル地域中核病院(アチョリ地域)、リラ地域中核病院(ランゴ地域)、アルア地域中核病院(西ナイル地域)は、1920～30年代に建設された施設であるため老朽化が著しく、診療を行うために必要な医療機材の不足も常態化している。更に、既存施設の患者の収容能力は、同地域の人口増加(3%超(2015年、世界銀行))により、限界に達しているが、南スーダン共和国及びコンゴ民主共和国からの難民の流入、特に2016年7月以降の南スーダン共和国からの難民の急増が加わり、更なる患者の増加を招いている。この状況は、患者待ち時間の増加や治療開始の遅れなどを引き起こし、地域中核病院として求められる保健サービス(専門外来、高度な手術・治療等を含む)が適切に提供できない状態を招いているため、これらの施設に関する保健サービスを提供する体制の強化は喫緊の課題である。

北部ウガンダ地域中核病院改善計画(以下「本事業」という。)は、当国北部3地域の地域中核病院において、施設及び機材の整備を通じて、同病院の保健サービスを提供する体制の強化を図るものであり、「保健セクター開発計画」(2015/16年-2019/20年)においても、当国の保健システム強化に不可欠な優先度・緊急度の高い事業として位置付けられている。なお、本事業は対象施設を利用する地元住民及び難民の双方に裨益することから、両者間の社会的緊張の阻止・緩和にも貢献する。

(2) 保健セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け

我が国は、対ウガンダ共和国国別開発協力量針(2017年7月)及びその別紙の事業展開計画において「生活環境整備(保健・給水)」を重点分野、「保健サービス向上」を開発課題と位置付けており、「地方の中核医療施設・機材の改善・拡充」を対応方針に掲げている。更に対ウガンダ

共和国 JICA 国別分析ペーパー(2015 年 3 月)においても、「地方都市中核病院の整備によるリファラル体制の強化」が主要な開発課題であると分析されており、本事業は、これら我が国及び JICA の協力方針や分析と合致している。

なお、我が国は、これまで地域医療施設・機材の整備を目的として、主に当国東部、中央、西部の地域中核病院を中心に無償資金協力(E/N 締結年度:2002、2005、2009、2013 年度)を行った他、同地域中核病院の保健インフラマネジメント及び利用改善を目的として「保健インフラマネジメントを通じた保健サービス強化プロジェクト」(2011~2014 年)等の技術協力を実施した。

また、本事業は SDGs のゴール 3(保健)及びゴール 10(不平等)に貢献すると考えられる。

(3) 他の援助機関の対応

米国国際開発庁を始め、欧米ドナーが感染症対策、母子保健を対象とした事業を実施している。世界銀行は保健センター、県病院、地域中核病院等を対象に、アフリカ開発銀行は国立ムラゴ病院を対象に、施設整備を支援している(支援額はそれぞれ約 130 百万米ドル、約 40 百万米ドル)。

3. 事業概要

(1) 事業目的

本事業は、当国北部のアチョリ地域、ランゴ地域、西ナイル地域の各地域中核病院(それぞれ、グル地域中核病院、リラ地域中核病院、アルア地域中核病院)の施設及び機材を整備することにより、地域中核病院としての機能強化を図り、もって当国北部の保健サービスのアクセス及び質の改善に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

アチョリ地域(8 県)、ランゴ地域(8 県)、西ナイル地域(9 県)の各地域中核病院(それぞれ、グル地域中核病院、リラ地域中核病院、アルア地域中核病院)(全 23 県の人口は約 624 万人(2014 年、国勢調査)。)

(3) 事業内容

1) 土木工事、調達機器等の内容

[施設]

グル地域中核病院:産科・手術・救急外来複合棟(約 2,500 m²)

リラ地域中核病院:外来・救急外来棟(含む受電棟)(約 2,000 m²)

分娩室及び関連諸室(含む受電棟)(約 300 m²)

アルア地域中核病院:外来・救急外来棟(含む受電棟)(約 1,800 m²)

[機材]

外来処置・診断機材、救急処置機材等(主要な機材で計 28 品目)

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネント

詳細設計、入札補助、施工・調達監理。ソフトコンポーネントは、対象機材に対する運用・臨床技術及び保守管理技術の向上並びにコンピュータ X 線撮影システム運用のための指導を行う。

(4) 総事業費

3,314 百万円(概算協力額(日本側):2,860 百万円、ウガンダ側:454 百万円)

(5) 事業実施期間

2018 年 4 月~2023 年 3 月を予定(計 60 か月)。施設供用開始時(2020 年 3 月)をもって事業完成とする。

(6) 事業実施体制

1) 事業実施機関:保健省 (Ministry of Health)

2) 運営・維持管理機関:

保健省の指導監督の下、各地域中核病院が運営・維持管理を担う。

(7) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

技術協力「保健インフラマネジメントを通じた保健サービス強化プロジェクト(フェーズ 2)」を 2016 年度より実施中。本事業対象の 3 病院を含む全国 14 ヶ所の全地域中核病院を対象に、医療機材の運用方法を指導する人材の育成や、医療機材に関する維持管理体制強化を含む保健インフラマネジメントの強化を行う。

2) 他援助機関等の援助活動

当国北部では、米国国際開発庁が「AIDS 対応システム強化プロジェクト」(2010 年～2018 年)により、本事業対象 3 病院に対し感染症対策を実施し、イタリア外務省開発協力総局が「グル地域中核病院放射線科整備計画」(2015 年)によりグル地域中核病院に対し整形外科部門、放射線部門を支援している。両案件では、本事業対象病院への検査室及び診断機材、放射線機材等の整備が含まれているが、本事業で整備する機材との重複はない。イタリア外務省開発協力総局が上記案件で建設した放射線部門棟の近くに、本事業によりグル地域中核病院に建設予定の産科・手術・救急外来複合棟を建設し、医療従事者や患者の往来を容易にすることで、保健サービスの質の改善に寄与する。

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類:C

② カテゴリ分類の根拠:既存施設の敷地内における病棟建設および機材整備を行う事業であり、環境及び社会への望ましくない影響は特段想定されない。

2) 横断的事項:

元国内避難民・難民支援:当国北部は 1980 年代から約 20 年続いた内戦の影響を最も受け、多数の元国内避難民がおり、また国境の接する南スーダン共和国、コンゴ民主共和国からの難民が急増していることから、本事業による保健医療サービスのアクセス及び質の向上は当国北部の元国内避難民及び難民に裨益する。

3) ジェンダー分類:

本事業は対象地域の母親含む女性の健康に裨益するものを含んでおり、ジェンダー活動統合案件(GI(S))に分類。

(9) その他特記事項:特になし。

4. 事業効果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 定量的効果

1) アウトカム(運用・効果指標)

① グル地域中核病院

指標名	基準値 (2011/12～2015/16年 度の実績値の平均)	目標値(2022/23年) 【事業完成約3年後】
分娩数(件/年)	4,768	5,500
手術件数(件/年)	1,543	1,800
救急患者数(人/年)	5,445	6,300
集中治療室受入れ患者数(人/年)	0	200

② リラ地域中核病院

指標名	基準値 (2011/12～2015/16年 度の実績値の平均)	目標値(2022/23年) 【事業完成約3年後】
外来患者数※1(人/年)	121,345	144,000
母子保健患者数※2(人/年)	67,736	80,400
救急患者数(人/年)	4,800	5,400
分娩数(件/年)	5,804	6,800

※1 外来患者:一般外来、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科

※2 母子保健患者:産前ケア、家族計画、がん検診、HIV 母子感染防止パック・早期幼児
診断、予防接種

③ アルア地域中核病院

指標名	基準値 (2011/12～2015/16年 度の実績値の平均)	目標値(2022/23年) 【事業完成約3年後】
外来患者数※3(人/年)	96,208	116,000
救急患者数(人/年)	5,315	6,400

※3 外来患者:一般外来、医薬外来、糖尿病科、栄養科、緩和ケア科、小児科、外科、整形
外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、産婦人科

(2) 定性的効果

- ・ 地域のリファラル病院としての機能の強化を行うことで、当国北部の保健サービスのアクセス及び質が改善する。
- ・ 施設改修及び機材整備により、病院の混雑緩和、清潔度の向上など利便性が高まることで、難民を含めた当国北部の住民の病院への信用、満足度が高まる。

5. 前提条件・外部条件

(1) 前提条件

先方負担事項(建設工事の敷地提供や建設予定地の整備等)が適切に実施されること。

(2) 外部条件

内戦終結後の平和復興の進展状況が急変しないこと。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

当国向け無償資金協力「東部ウガンダ医療施設改善計画」(評価年度 2010 年)及び「中央ウガンダ医療施設改善計画」(評価年度 2015 年)の事後評価等では、医療機材を選定する際、対

象病院の医師が使ったことのある機材に限定した上で、使用経験の少ない機材に対して研修、ソフトコンポーネントを実施した結果、整備機材の有効活用及び、適切なメンテナンスにつながっていることが指摘された。

本事業でも、病院側の臨床技術レベルや維持管理体制(予算、人員、スペアパーツ等)の現状を踏まえ、上記評価結果も参考に整備機材やソフトコンポーネントの内容を検討した。

7. 評価結果

本事業は、当国開発政策・開発課題並びに我が国及び JICA の協力量針や分析に合致する。また北部の復興支援や周辺国からの難民支援の観点からも人道上のニーズがきわめて高い。さらに北部の保健サービスのアクセス及び質の改善を通じ、住民の健康的な生活の確保や他地域の住民との不平等の是正に資するものであり、SDGs ゴール 3 (健康と福祉) 及びゴール 10 (不平等) に貢献すると考えられ、無償資金協力の必要性は高い。

8. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

4.(1) ～(2)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成 3 年後

以上